

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

改めまして、おはようございます。いよいよ今議会の一般質問もラストスリーとなりました。頑張って質問させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、ただいまから通告書に従ひ一般質問をさせていただきます。

初めに、健康増進についての質問でございます。

本市でも今議会に、国民健康保険税率を引き上げる条例改正案が提案されているところがあります。全国的に国民健康保険の運営が加入者の高齢化や低所得者の増加、医療費の増大等により、保険財政が厳しい状況にあり、保険運営の安定確保が喫緊の課題となつておるところでございます。

そういうところから、国は各保険者の財政が厳しい状況を見て、医療保険制度の将来にわたる持続的、安定的な運営確保のために、平成18年6月、健康保険法等の一部を改正されたところがあります。内容を見てみますと、短期的対策として、高齢者の患者負担の引き上げ、療養病床に入院する高齢者の食費、居住費負担の引き上げなど、高齢者の方には自己負担が強化されたことによって過剰診療等の抑制になり、短期的な医療抑制には効果が上がってくるものと言われております。しかし、他方で、患者の早期診療が抑制され、病気が進行し、逆効果も懸念されているところでございます。

中・長期対策として、国、地方自治体に対し、医療費の適正化計画を義務づけ、生活習慣病有病者の25%削減、平均在院日数の削減などの目標値を定め、検証、評価を行い、適正化に取り組むようになっております。また、保険者に対して、生活習慣病対策の取り組みとして、糖尿病などに着目した健康診査及び保健指導の実施が義務づけられました。そういうことで、国の政策として予防策をして医療費の抑制に努めるというようなことを位置づけたものでございます。

ここでお尋ねしたいのは、平成14年度制定の健康増進法の8条の中でもうたつてありますが、市町村にも健康増進計画の策定が努力目標としてうたわれておりました。本市では現在、武雄市がばいたっしゃかプラン21が策定中であると、きのうの一般質問の答弁でもおりました。この武雄市がばいたっしゃかプラン21は、どのような内容で策定を進めておられるのか。きのうも若干、説明触れられましたけれども、少し詳しく説明をお願ひしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

御指摘の健康増進計画については、武雄市がばいたっしゃかプラン21として、市民参加型により本年度中に策定するよう作業中でございます。赤ちゃんから高齢者までの生涯を

通じた健康づくり、それぞれの世代に応じた取り組み等、計画をするようにいたしているところでございます。生涯を通じた健康づくりの指針として推進をしているところでございます。

この計画の策定に当たっては、策定委員会を設置いたしまして、その下に幹事会を設置しまして、策定を進めております。策定の幹事の中には公募で幹事を選んで、いろんな意見を聞きながら策定をして、現在ある程度のところがまとまってきたところでございます。年度内に策定終了としたいというふうに考えておるところでございます。

この計画については、昨日も申しましたように、それぞれの健康づくりの内容に応じて目標値を設定して、目標値に基づく推進を図りたいというふうに計画をしているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

きのう夜、原案を見ました。イラストが入ったり、先ほど答弁がありましたように、数値目標が入ったり、なかなかいいなというふうに思っていましたけど、ちょっとぱっと考えたときに、だれがこれを読むんだろうかと。やっぱり、行政がつくるものっていうのは、読む人の気持ちば余りよう考えとらんですね。そういう意味で、私は、昔の人がなぜたっしやかかったかというのをきのう夜、もう一回思いをいたしました。なぜか。やっぱり歩きよったけんやったと思います、一つは。やはり、武雄、佐賀、あるいは私は沖縄にいました。やっぱり歩きんさっですもんね。だから、それが予防医学の観点から、歩く、あるいは長崎でさるく博というのもありました。そのさるくというのに観点をこれ入れてもらって、その章を起こしてもらおうと思っております。歩く、さるくというのは、日常だれでも行う行為であるというふうに思っております。そういう意味で、一つの具体的な行為を入れて身近なものにできるような計画づくりということで私の方から担当の方をお願いをしたいというふうに思っております。これをもって、身近で、見ればすぐわかるような計画になればいいなというふうに期待をしております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

御答弁ありがとうございます。

計画策定中というようなことで、市民参加型で策定をされているということでございます。市長からの答弁で、少しわかりにくいから、わかりやすいように若干改める部分もあるというようなことを発言をしていただきました。

ちょっと飛び越して、ここに、杵藤地区の介護保険事業所から出ました、この組合に入っ

ておられる市町ごとに分けた介護認定者の出現率をあらわした表がございます。それをちょっと見ていきたいと思います。

というのは、健康増進計画の中に、やはり武雄独自といいたいでしょうか、そういうふうなもの、やはり織り込んでいかにかいかなとやないかなというふうなことで、ちょっとそういうところも見てみました。医療的に云々じゃなかったんですけども、介護の認定の出現率から、どういうふうにとらえるのかというふうなことで、ちょっと表を見させていただきましたので、ちょっと読み上げてみたいと思います。

まず、介護認定者の統計というようなことで、武雄市は64歳以下の出現率が高いというふうなことで、まず1号被保険者、65歳以上の出現率でございます。これは、1,000人に対して何名出るかというような統計でございますが、全体では18.23、武雄市で18.78、鹿島市で16.36、大町町が多くて20.47、江北町が18.21、白石町が20.09、太良町が16.57、嬉野市が17.41と、大体平均値ぐらい、大差はそうないんですね、65歳以上は。

次に、2号被保険者を見てみます。これは、40から65歳未満の方の1,000人に対して何名出現しているかという表を見てみます。全体で見ますと3.7、武雄市が4.28、鹿島市が3.55、大町町がちょっと多くて5.62、江北町が1.92、白石町が3.61、太良町が3.12、嬉野市が3.2となっております。大体、合計3.7というような平均値に皆さん一緒になっておりますが、大町町が5.62と突出しておって、その次に4.28と、グラフで見ますと突出しております、武雄市がですね。

そういうふうなことで、4.28といえますと、武雄市で大体74名の方がこれに関係しておられ、認定を受けておられます。その認定、74名の方はどういう疾患でそうなられたのかというのが、ここに表があります。大体、武雄市が脳血管疾患ですね。脳血管の疾患、これが63%で一番多いです。その後は、糖尿病関係が15%ぐらいだったと思います。そして、慢性関節リウマチが12%、あとは認知症が8%、パーキンソン病が4%、あとその他というふうになっております。これは出現率は大体、鹿島市でも同じ傾向でございます。ただ、白石町とかは46%と、50%を切っておるデータもあります。

そういうふうなことで、やはり2号被保険者の認定の出現者が武雄市が大町町に次いで、ちょっと特別突出した状態になっております。そういうふうなことで、このデータは武雄の執行部の方にも、関係執行部の方にも届いていると思いますが、この辺の出方、そういうふうな、どういう何の原因でこういうふうになって、こういうふうに出ているのか、その辺を調査されたか、されたならばどういう原因だったのか、お尋ねをしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

具体的な調査は現在のところ行っておりません。結果として、そういうふうになっているというふうにお聞きしたところでございます。

原因についてでございますが、食生活における食事バランスの問題、それから栄養面の偏り、あるいは喫煙等々、考えられるところでございます。また、肥満によるメタボリックシンドロームの症状による発生もかなり出てきているんじゃないかというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

調査、原因は追及していないと、究明していないという答弁でございます。想像としてというようなことで、食事、栄養の偏り云々と答弁ございましたが、確かに今の社会情勢、ファストフードの発達、またいろんな食料の発達というようなことで栄養の偏り等もあっているかと思えます。

しかし、今こういう、たっしゃかプラン21健康増進計画を策定されている中で、そういうふうな発生状況、原因等ももう少し追及して、究明をして、そして武雄市独自の健康増進計画をつくるべきではないかなと思うわけでございます。ただ、これは市民参加型ということでございますので、何ですか、コンサルタントに頼んだだけの策定ではないのかなとは思いますがけれども、本当にこういうふうな計画を立てるとコンサルタントに頼んだだけになってしまうようなおそれも今までありましたけれども、その辺を少し市民型になっているということによって安心をしましたがけれども、ただ、やはりその地域にマッチしたものになっていないと何もならないということでございます。また、市長も今答弁していただきましたけれども、そういうふうな歩くこととか、健康につながるようなことをもっとどしどし入れていって、ただ数値目標を入れた、何を入れた、だけにならないようお願いしたいというふうに思うわけでございます。

また、こういうふうな脳血管の疾患の原因というようなことで、食事のことをおっしゃいました。栄養の偏り等もおっしゃいました。やはり、それから考えると、市にも保健師の方がいっぱいいらっしゃいます。そういうふうなことで、保健師の健康指導等、今までもやっておられると思います。しかし、やはり今後はそれにあわせて、栄養士を配置して、成人への、子供さんたちもそうでしょうけど、栄養指導が大事になってくるのではないかなというふうに思うわけでございます。また、たっしゃかプラン21の推進、できた後の推進や、各健康事業の企画立案にも、栄養士の方が最初から参画をしていただいて、健康、予防につなげていけば成果が上がるのではないかなというふうに思うわけでございますが、御答弁をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御指摘のとおりだと思います。やはり、専門的分野になったら、専門の資格を持った方が入っていただくといったことが筋だというふうに思っています。そういう意味で、今後、栄養士の方の活用を図っていききたいというふうに思っております。

ただですね、人によりけりなんですね。私も栄養士の方と何人か知り合いがいますけれども、本当に熱心な方と、余り、言い方悪いですけど、そうでもない方もいらっしゃいますし、ただ単に栄養士だからといって云々かんぬんではなくて、そこにやっぱり人の問題も入ってくるというふうに思っております。特に、栄養士の場合は、単に専門的知見を持つだけじゃなくて、人と触れ合うわけですね。そういう意味での、何と申しますか、人を大事にする気持とか、あるいは仕事を飛び越えた情熱とか、そういった方にぜひ一緒に、健康増進計画であるとか、あるいは食育課とか、呼びかけていきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

理解をしていただきまして、本当にありがとうございます。

今、市民参加型のがばいたっしゃかプラン21の策定中であるというふうにおっしゃいましたが、ここに、事前に策定委員のメンバー表をいただいております。そしてまた、幹事会等の名簿等にも書いてあります。この中に、妊婦・乳幼児期部会というようなことで1人、栄養士会の所属というようなことで、この方は民間なのかな、栄養士資格を持っておられるんじゃないかと思う。ところが、策定委員の13名おられますけれども、この中で栄養士の免許を持っておられる方はいらっしゃいますでしょうか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

委員の中に栄養士の免許を持っている人がいるのかどうかということですが、確認をいたしておりません。したがって、すぐ調査しまして、報告をさせていただきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

ちょっと今わからないということですが、やはりこういうふうな企画するときには、当然、栄養士の方も入っていただくにゃいけないのではないかなと。（発言取消）に、せっかくこのプランによって策定される、今後健康増進に計画される……（発言する者あり）失礼

しました。取り消させていただきます、今の言葉を。済みません。

そういうことでございますので、何でしょうか、ぜひそういう方に入っていただいて、立派な計画をつくっていただきたいというふうに思うわけでございます。

そしたら、県内の市町で、今栄養士の配置状況、管理栄養士等も含めまして栄養士の方の配置状況がわかっているならば、ここで御説明いただきたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、さきの質問で、策定委員の中に栄養士が入っているのかということでございますが、策定委員の中には資格を持っていらっしゃる方はいません。策定委員会の下に幹事会がございまして、ここの幹事の方が2名持っていらっしゃいます。

それから、県内の市町の栄養士の配置状況でございますが、具体的に調査をいたしておりませんので、これもまた調べて報告させていただきます。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、調査していないということで、ここには配置率を書いた表があります。大きい市ですね、武雄市を含めてですけれども、大体、佐賀市、唐津市、鳥栖市、これは嘱託で管理栄養士がいらっしゃいます。佐賀市2名、唐津市1名、鳥栖市、多久市にそれぞれ1名。それから、伊万里市にも1名の栄養士の方が、これは常勤の配置のようでございます。あと、嬉野市に2名、ほかには川副町とか東与賀町、いろいろずっと、有田町、白石町、太良町にもずっと1名ずついらっしゃいます。合計18名が配置されているわけでございます。

しかし、今、武雄市ではちょっとお尋ねしますと、登録された栄養士がいらっしゃいまして、乳児健診とか、そういうときには出ていただいております。しかし、今後は、やはり社会的な指導として、成人にも栄養指導をしていかにかいかんというような法律も制定されております。そういうことから、ぜひ栄養士を配置していただきたいというふうに思うわけでございます。

お隣の市に栄養士が2名いらっしゃるというようなことで、私もその栄養士の方に会いに行きました。もう30年ぐらいの経歴を持っておられるベテランのばりばりの栄養士の方でございましたけれど、2名一緒に話を聞かせていただきましたけれども、本当にその市の企画立案、そしてこういう健康事業等に参画をされて、非常に生き生きと答えを、話をさせていただきまして、やはり一生懸命本当に取り組んでいただいておりますというふうに思いました。

今、市長の答弁にもありましたように、栄養士の方は本当に継続的にずっと子供から大人まで、本当にその人を見ながら栄養指導をされている。本当にそのようにかかわりを持ってされているようでございます。そういうようなことで、私は本当に感心して帰りましたけれども、やはりこういう方が武雄市にいらっしゃったらなというふうに感心して帰ったところでございます。

次の質問に移ります。

それでは、次の質問でありますが、次の市長の具約の一つとして平成19年度から機構改革をなされた新組織が発足するわけでございます。今改革の中で、食育の推進の一環として食育課をこども部の中に設置されます。この食育課の設置については、本当に大変喜んでいらっしゃるところでございます。かなりの成果を期待しているところでございます。本当は、この食育課に栄養士さんがいらっしゃればなというふうに思ったわけでございます。

私どもは福祉生活常任委員会で、これは市長の紹介もございまして、福井県の小浜市に食育の方で行政視察に行つてまいりました。そこでは、非常に食育を一生懸命取り組んでおられまして、生涯食育というふうなことで策定をされまして、乳幼児事業、小・中学校、高校、大学生、成人、高齢者というふうに分けて食育に取り組んでおられます。

こども部に食育課を置くというふうなことでございますので、いろいろ子供たち、乳幼児に対してはそういうふうな指導もできるかもわかりませんが、成人とか高齢者に対しての食育指導、これはどうなさるのか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、栄養士の配置状況について申し上げたいと思います。

19年度の栄養士の雇用予定として、武雄保育所1名、これは正規職員であります。それと6名、これは臨時で6名、それと市民病院に1名を考えております。それと、食育課に栄養士を配置したいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

どうもありがとうございます。ぜひ食育課に1名でも栄養士がいらっしゃれば、本当に食育が本当のものになってくると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それから、もう一つ、食育についてでございますが、現在、市内で、先ほど話も出ておりましたが、生ごみを堆肥化して有機農業等取り組んでおられる方や、EM菌を利用したりして、いろんな方法で野菜の有機栽培に取り組んでおられる方がいらっしゃるのは、皆さん御存じのとおりとおりの思います。

昨年の9月発行の「タケさん通信」の「ダカラ・ヘルシー」欄に、「野菜とおなか」というタイトルで、清水医院院長の清水先生のお話が掲載されておりましたので、皆さん読んだ方もいらっしゃると思いますが、ちょっと読ませていただきますと、20年前の野菜と今どきの野菜を比べて、栄養素が半減しているという話のことですけれども、途中略いたしまして最後の方だけ読みますと、「恐らく堆肥などの有機肥料の大切さを忘れ、化学肥料を大量に投与したことによって土壌の中の有益な微生物が減少し、大きいだけでうまみや多くの少ない野菜ができていた可能性も否定できないと思います。人間でも同じように、食物を含む生活習慣の変化から腸内細菌の減少や攪乱が起こって、病気に弱い人間をつくっているという見方もできるかもしれません。人間の胃腸（おなか）と土壌は同じであると思います。よい土壌で健康に育ったものを食べてこそ、健康な胃腸、体が保たれ、健全な生活を営むことができると思います」というふうにコメントされたものが記事として載っております。

これを読んで、本当にそうだなと思いました。確かに、市長の答弁も同じような思いの答弁だったと思います。この化学肥料を使わない有機栽培で育った元気のいい野菜を使って、化学調味料や、先ほど市長申されました調味料や人工甘味料を使用しない学校給食等をこれからはもどしどし提供していきたいわけです。そして、がばい元気な武雄っ子を育てていただきたいと思うわけでございます。

12月議会で、学校給食では今、そういう化学調味料等は使っていないということを答弁なさっておりましたので、心得ております。ただ、この使用野菜についてはそういうふうな、先ほど紹介もありましたけれども、有機栽培でつくったものをますます推進していただきまして、きのうの答弁でございましたけれども、朝市等にも十分出せると思います。そういう生産者を支援していただいて、学校給食、また市内のスーパー、また直販店ですね、そういうところにもどしどしそういうのが目にかかるようになるように推進策をお願いしたい、育成をお願いしたいと思うわけでございますけれども、市長の答弁をお願いいたします。

済みません。質問がわかりにくくて。

そういうふうな有機栽培をしておられて、いろいろ手を加えておられます。なかなか、商売には成り立たないとは思いますが、その辺で費用というふうなことは言えませんが、そういう何か支援策、育成策が考えておられないか、市長にお尋ねをしたいところでございます。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

直接補助ということは、ちょっと考えにくいと思いますが、例えば、学校給食の場

合に、私、常々思うのは、有機栽培とか、あるいは低農薬野菜というのは余りとれんわけですね。となると、ただ学校給食は隣の子と全く同じじゃなからんばいかんわけですね、基本的には。学校給食法で定めているとおり。だけど、それをちょっと見直してもらって、極端に言えば、隣の子と違うメニューの出てもよかと思うとととですね、量の足りんぎ。あるいは形が違っていいとか。そうしないと、やっぱり有機野菜とか低農薬野菜というのは品物の限られておりますので、なかなか進まない。そういう意味で、私は教育委員会にそういった問題提起をしたいというふうに思っております。

もう一点です。旅館です。ホテルであります。これについても、今までも、やっぱり話をしよつたらですね、どうしてもやっぱり同じんとば出さんばいかんと。ずっと定量的に欲しかと。その考えをちょっと一たん変えてほしいというふうに思うわけですね。きょうとれば、山内の新鮮なチンゲン菜がとれたとか、あるいはどこでもよかです、中野でよかイチゴのとれたといったときは、それを朝摘み野菜として出すとか、その日その日によってメニューは、僕は変わってもいいと思います。それが一番うまくいっているのが京都だというふうに思っています。京都に俵屋旅館という旅館があります。私は高うして泊まったことなかです。そこの朝御飯というのは毎日変わるわけですね。その俵屋の御主人さんはどこから持ってきよつかというぎ、20キロ北の方の大原、大原三千院の大原から持ってきよんさっわけですね。

だから、そういうふうに流通経路にのっけなくても、直接に、例えば、契約を結んでもらって、そういうふうに出していくと。これは旅館の皆さんたち、あるいはホテルの皆さんたちの意識改革も必要だと思いますし、あと、そういう有機野菜とか、低農薬野菜とか、あるいはおいしい野菜をつくっていただいているところは、可能な限り、旅館のニーズにも合わせてほしいと。それがマッチングできれば、もう少し広がりがとれるんではないかというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

ありがとうございます。食育については、市長、かなりの見識を持っておられますので、今後とも市長のリーダーシップをとってやっていただきたいというふうに思います。

次の質問に移ります。

次に、福祉サークルの支援についてのお尋ねでございますが、まず、介護保険のですね、「よくわかる介護保険」というふうなことでパンフレットがございますが、この中に非該当者、今度7段階に介護の状態の区分が分けられました。要支援1、2、それから要介護1、2、3、4、5の7段階でございます。そのほかに認定をされない非該当者がいらっしゃいます。これは当然、非該当者は介護保険ではサービスを受けられないわけでございますが、

ただ、この方たちには介護保険の対象者にはなりません、市町村が行う介護予防事業の支援やサービスを利用できますというふうになっております。この市町村が行う介護予防の事業の支援やサービスはどのようなものなのか、これを利用する場合は有料なのか、お尋ねをしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

介護保険の認定者については、先ほど質問者が言われましたように、段階的に分けられています。それぞれの状態に応じたサービスが提供されるということになりますが、その費用についてはサービス費用の1割を介護保険の方から補助していくというところでございます。施設入居者の入所、そこの中での体力の維持、それから改善、そのような内容のサービスを行っているところでございます。

介護保険適用者については先ほどのとおりでございます。介護前のサービスについてでございます。現在、日輪荘でのデイサービス、それから各施設へ、在宅支援センター等でのサービスがございます。それから、要支援者、介護になる前の要支援1、2の方については予防をする必要があるということから、包括支援センターで調査、認定をし、それからデイサービス等の支援を受け、サービスに努めているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

要支援1とか2、あと要介護、これを認定された方は当然、サービス、1割負担でサービスを受けられると思います。どこでも受けられると思いますが、非該当者になった方ですね、こういう方は、やはり自分が認定を受けたいけれども、受けられない、どこかでなかなかハードルも高くなってきております、認定のですね。そういうふうなことで、受けられない。しかし、何かの介護指導とか、そういうふうなサービス、支援やサービスを受けたいわけです。ただ、相談じゃなくて、手を動かしたり、頭を使ったり、体を動かしたり、なかなか自分ではできないけど、ちょっとしたアドバイス等があれば、そういうふうなことができる、また、皆さんと一緒に共同すればできるというふうな、そういうふうなサービスが市町村であるのかなというふうに私は思ったわけでございまして、それで市町村が行う介護予防事業の支援やサービスを利用できますと、それを利用できるのかなと思って尋ねたんですが、よろしくお願いします。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

先ほど申しましたように、認定になる前の方々への支援でございますが、一つは、老人会等での指導がございます。老人会に職員が出向いて、体操とか、それからいわゆる健康づくりの観点から体操とかを指導して行っているのが一つです。それから、日輪荘でのデイサービス、介護前の方への運動を指導したり、それから食事の提供をしたり、食事面での改善等の指導をしたりしているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

大体わかりました。

この補佐として、ほかに市民活動として認知症を対象とした介護予防の推進に取り組んでいただいたりしておられる方がいらっしゃいます。そして、今は、これが県の焱の博地域活性化事業の支援を受けながら積極的に取り組んでおられるわけでございます。これが大体、県の支援事業が3年間で打ち切りでございます。

こういう介護予防等は、やはり継続してその人にずっと同じとか、いろんなサービスをしていかないと、すぐ介護認定が待っているというふうになってくるわけでございます。今、介護保険料も高騰し、上がっておるわけでございます。そういうふうなことで、この予防策を民間の方のサークルで今行っておられます。そういうことをされると、そういうサークルが多くあられると、今部長の答弁もありましたような施設を利用したり、そういう方のところに、例えば、包括支援センターが18年度から、今年度からずっとされておりまして、そういうところに相談されて非該当になった方が、じゃ、どこに行くのかと、行き場がない、そういうときに今おっしゃった各地域の支援センター、そしてこういうサークルをマップ化して、こういう場所にはこういう方のサークルが、こういう認知症の予防がサークルがあります、こちらにはこういう手芸をしながらされているサークルもございましてというようなマップをつくって、ぱっとそれを見たら、自分が行きたいところに行けるようなものになればなというふうに、だれがおっしゃったことを私は聞いております。

そういうことで、そういうふうな組織をふやすためにも活動をなさっておられる方への支援、援助、育成でしょうか、そういうことをお願いしていかにかんわけてございますが、その辺について市長の考え方をお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

今御指摘の件でございますが、現在、そういうサークルについての運営補助についてはいたしておりません。今後、そういうサークルがなさる事業については補助等を中身によっては検討していきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当にそういうことで検討していただければと思います。消耗品ぐらいは、そういうふう  
に、中でも援助があればというふうに思うわけでございます。

それでは、次の質問に入らせていただきたいと思います。

下水道の運営についてのお尋ねでございます。

まず、きのうの質問でもあっておりましたが、今、市内で供用開始が済んでいるところで  
接続率の答弁がございましたが、山内町で65.6%、矢筈で98.2%、橋下地区で56.4%と  
いうことで、武雄市全体で65.2%の接続率というような答弁がございましたが、この接  
続でございますけれども、供用開始から3年をめどに接続するよというよなことで条  
例にも定めてあるわけでございますが、この接続率が計画のように進んでいないのが現状で  
ございます。やはり、接続に対しましては、宅内の配管工事や便所の改装も必要で、かなり  
の金額負担も強いられます。今の社会状況から考えると、各個人、大変な出費になると考え  
るわけでございます。

しかし、今赤字となっている農業集落排水の運営から考えると、まず接続をお願いして、  
計画していた接続率に持っていかにゃいかんというのが先決じゃないかなというふうに思う  
わけでございます。

そこで、接続率のアップに向けてどのような取り組みをなさっておられるのか、また、今  
後どういう施策を考えておられるのか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

接続率のアップ対策でございますが、回覧板やチラシ等の配布で早期の接続をお願いして  
おりますが、もう少し突っ込んだ形で話を持って行ってできるようなものを検討したいとい  
うふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

私も、この佐賀県内の農排がされている地域の接続率のいいところ、そうでもないところ  
等をちょっと二、三カ所回ってまいりました。そういうふうなところで話を聞きますと、や  
はり接続率の普及というのは非常に頭を痛めておられるのが実情でございます。しかし、や  
はりピラ配布は当然のことやっておられますが、やはり担当職員の方の努力ですね、相手  
の方に出向いて行って、今のそういうふうな必要性を論じていただいて、理解をしていただい

て、接続率アップにつなげている。また、いろんなそういう工事をされる業者もいらっしゃいます。ほかにもいろんな関係団体があると思います。それを利用して、もう少し全体でそういう普及に努めればと思うわけですが、もう一度答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

おっしゃるとおり、直接会って話をするのが一番だというふうに思いますので、職員が家庭訪問をするなり、そういった形がとれるように検討してやっていきたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

ぜひ、接続率アップに努めていただきたいというふうに思うわけですが、

3番目に書いてありますが、使用料についてというようなことで、ここでちょっと触れたいと思いますが、使用料ですね、これは農排に関しましては合併協議会の中で、武雄市が世帯割1,050円、人員割840円、それから旧山内町が世帯割が1,050円、人員割630円、北方町が水道使用料の7立米までが945円、8立米から30立米までが1立米につき147円と、こう決められております。そして、協議会の中で話し合いされたのが、農業集落排水施設利用については現行のとおりとし、新市において調整すると、こういうふうになっておるわけですが、

調整するというようなことで、これは私どもは調整するということは、金額が、人員割とか水道料のメーターでいくとか、ばらばらというようなことで、これを統一、安い方にされるのか、ちょっと高い方にされるのかわかりませんが、その辺の調整をされるんだらうというふうなことで、値上げとは考えておらんやったわけですが、12月の答弁の中に、そういうふうなところも含んだところの答弁をされましたので、ちょっと危惧したわけですが、接続率アップをせにゃいかんというふうなときに、そういう使用料までアップするというのはいかがなものかなというふうに思ったわけだったので、今回ちょっと質問いたしました。

住民感情も考えていただき、合併をして、いろいろな上がる要素の話が出ております。また、その中で下水道の使用料まで上がってくるということになると、本当に合併をして何でも上がってしまったというような住民感情も出てくるのではないかなというふうに思うわけですが、その辺も考えていただきまして、料金改定を考えていただきたいと思うわけですが、答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

維持管理費で17年度決算で95,770千円、使用料収入が66,321千円ということで、約7割にとどまっております。こういったことで、維持管理費を使用料で賄うことが下水道事業の健全な運営で重要なことだというふうに考えておりますので、使用料の値上げも一定やむを得ないのかなというふうに思っております。ただ、現在、19年度中に使用料統一について検討することにしておりますので、その中でこの料金の分も含めて検討してまいりたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的には、先ほど部長が答弁したとおりなんですけれども、やっぱり接続率が悪ければ、それだけ上げんばいかんわけですね。だから、接続率を上げることは、これは議員と全く問題認識一緒ですけれども、議員もその強い影響力を発揮して、地区の方々に、自分たちのためばいということ、やっぱり説法してほしかわけですね。職員も、先ほど横で副市長とも話していましたが、担当を越えて行きます。我々も市を挙げて接続率を上げるように頑張っています。そういう中で、使用料の改定については、やっぱり持続可能にせんばいかんけんですね、思っておりますので、ぜひ一緒に頑張りましょう。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

独立採算制というふうなことで、きのうも話が出ておりました。非常に財政的には厳しいものでございますので、私が聞きに行きました市町でも、やはり財政というのは非常に重くのしかかっているところではございます。そういうふうなことで、いろいろ苦慮をされているようでございます。今、市長も一生懸命取り組むということでございますので、接続率アップは一生懸命取り組んでいただきたいというふうに思います。

それでは、次に汚泥のことについて、ちょっと質問をさせていただきたいと思います。

農業集落排水の汚泥は、一般廃棄物として市のし尿処理場に持ち込まれて最終処分をされているわけでございます。しかし、今、市のし尿処理場は、武雄市の真ん中あたりのまだ公共下水道が接続されていないところの簡易水洗化ですか、そういうふうな簡易水洗便所等もふえまして、非常に今多い量だそうでございます。そして、し尿の方も、余り持ってきてくれるなど制限をされているというようなことを聞いております。

そういうことで、ことしから山内、大野地区も供用開始がなされました。当然、接続率も図られると思います。そういうことで、当然汚泥もふえてくるわけでございますが、この汚

泥の減量化についていろいろ考えておられるのではなからうかなと思うわけでございます。私も、この減量化については堆肥化するか、何かをするか対策をしないと、本当に汚泥がいっぱいふえてくるんじゃないかならうかというふうに思うわけでございます。私が調べたところでは、堆肥化というのがリサイクルにもつながりますし、設備投資も余り多くかからないというようなことでもございました。そして、この堆肥もまだまだ市場性を調べると、市場性があるというふうなことも聞いております。

そういうふうなことで、私は堆肥化等を考えるべきかなと思うわけでございますが、汚泥処理の軽減策についてどのような考えを持っておられるか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

汚泥の関係でございますが、どうしてもふえる一方になっております。これについては、維持管理費の中で非常に経費を占めておりますので、減量化が一番の課題だというふうに思っております。そのため、減量化するための処理施設の運転マニュアルとか、それから減量システム、こういったものの導入が先ではないかということで、堆肥化よりも当面はそちらの方に力を入れたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、減量化と、どういうふうな減量化システムを考えておられるのか、ちょっと詳しく説明をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

いろいろ方法はあるようでございますけれども、移動脱水処理とか、それから超音波を使ったものとか、いろいろあるようでございます。そういったものを総合的に今検討させてもらっておるところでございます。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

乾燥圧縮といいますと、また排土が出てくるわけでございますが、その排土といいましようか、それは堆肥化にするとか、それはどがんなっとですかね。その処分は、

議長（杉原豊喜君）

藤崎市民環境部長

藤崎市民環境部長〔登壇〕

今、衛生処理センターの汚泥につきましては、平成17年度までは焼却して、ハイティックですが、製品等にしておりましたですけど、18年度から汚泥の処理につきましては業者の方に堆肥化リサイクル、土壌改良材の処分として委託をしているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

農排の汚泥の堆肥化については、なかなかちょっと進まん理由が二つあるようですね。一つが、市内に大きな処理業者がないということで、川棚町とか、あそこまで持っていくということで、移動にコストがかかるということと、もう一つが、処理そのものにやっぱりお金が結構かかってですね、そういう意味でなかなか進まないという報告を受けております。

そういう意味で、循環型社会を目指す上では、方向性としては議員と全く同じであります。それで、これは業者の名前は上げませんけれども、私のところに、ぜひ農排の汚泥をしたいといったところに来ておりますので、コストの面とか効果性の面で合うかどうか、一回ちょっと私も入って検討したいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、市長の答弁ありがとうございました。そういうことで、やはり堆肥化、そしてその市場性もまだあるということでございます。今から団塊の世代の方が退職されて、畑づくりに精を出されるという予定もされておりますので、ぜひそういう堆肥化等もして、肥料等にリサイクルできればというふうに思います。

次に、一般行政についての質問でございますが、今からのコミュニティーを考えると、地域での健康指導や介護予防の指導、青少年育成指導や災害時の避難場所などの拠点となる施設は、各家から何とか歩いて行ける範囲で考えていけないといけないと思うわけでございます。そう考えていくと、きのうの質問でもございましたように、地域の自治公民館が一番いい施設になってくると思います。

きょうの佐賀新聞にも載ってございましたけれども、変わる公民館というふうなことで、今必要なのは住民が気楽に集まることができる場、生涯学習の拠点となっている公民館だというようなことで、云々と書いてあります。また、最近、何も用がなくても公民館に立ち寄る住民がふえてきた、住民が自然と集まれば活性化や助け合いの話も生まれてくるのではと、そういうふうな意見も書いてあります。そういうふうなことで、今からは自治公民館、また生産組合といいましょうか、小部落の公民館、これがそういうふうな場所に、拠点として利

用を図っていくべきというふうに考えていくわけでございます。

しかし、そういうところに場所を考えると、段差があったり、手すりがなかったり、便所がちょっと狭くて健常者の方だけしか使用できないようなつくりになっているというふうなところもまだ多々あるわけでございます。今度の武雄市の総合計画策定に当たっては、ユニバーサルデザインを基本としてほしいという市長の要望も言われました。

公民館の建てかえのことについては、きのうの質問の中でも補助はどうするんだというふうなことで、今までは旧山内町が3分の1、北方町が3,000千円、武雄市が300千円というような答弁もあっておりまして、それを今調整しているんだと、もう少し待ってください、公表いたしますというようなことでございましたが、それはそのときを待つとして、建てかえはしなくても、何とか手すりをつければいい、段差を解消すればいい、便所の扉を変えればいい、便所をちょっと広くすればいいというようなところもたくさんあると思います。そういうところに対して、その改造資金といいたし、その対策資金をどのように考えておられるか。やはりそういうところがユニバーサルになっていないと、せっかくそこに避難しても、車いすでどうしてもというような方は利用できないとか、ちょっと足が不自由な方は手すりもないから歩けないとか、そういうふうな場面も想定できるわけでございます。

そういうふうなことで、こういうことに対してどのように考えを持っておられるか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

公民館のUD化、バリアフリー化は進めるべきというふうに思っています。ただ、これが全部行政が丸抱えということに関しては、私は反対です。だけん、地域に応じてですね、やっぱり自分たちのものでありますので、基本的にはそこに支援をしていくといった姿勢で臨みたいというふうに思っています。

私が参考にするのは沖縄です。公民館よりも民家にやっぱり人の集まんさつとですね。なぜかというぎんた、やっぱりどうしても生活のにおいのするところ、あるいは知っとなさつところに集まりたいといったところで、私は基本的にそちらの方も考えてほしかと思いますね。やっぱり、今独居老人の方がふえているとか、あるいは離れたところに住んでおられるとか、公民館も離れたところにある場合があるわけですね。そうではなくて、例えば、月曜日は末藤さんの家とか、火曜日は宮本さんの家とか、そういうふうに、私は全部が全部そうとは言いませんけれども、今あるものをそういうふうに利活用するといった二つの面をぜひ見てほしいなというふうに思っております。

もとより、繰り返しになりますが、UD化、バリアフリー化については、私も市政の第1に掲げておりますので、これは積極的に推進をしていきたいというふうに思っており

ます。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。個人の家等もありますし、ただ、手すり等は認められれば1割補助で、各家庭はそういう認定者がいらっしゃったりとかするところには1割負担すればつけられるようになっておりますので、上限は決まっておりますけれども、そういうことでそういうところにもそういうふうな対策があればなというふうな希望でございます。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

有線テレビの放映についてのお尋ねでございます。

現在、武雄市内にはケーブルワンさん、それから嬉野有線テレビ、それから有田ケーブルというふうなことで3社の有線テレビの方で放映をされております。市役所のお知らせ、火災発生時の文字のテロップ、また、きょうのような議会の一般質問等は市の予算をつけていただき、同時放送を流していただいているところでございます。

しかし、ほかには独自の地域に密着した放送をなされ、山内では山内の行事等が放送されております。有田ケーブルさんは、西地区関係の放送とか、全体的な有田の取り扱いをしております。しかし、武雄のケーブルワンさんは武雄の行事を放送されているようでございますが、ただ、人から意見を聞きますと、せっかく市が合併して一体にならばいかんと、放送があいよらんもの、ケーブルワン映らんものというようなことで、情報を共有したいという願いが出ております。

そういうようなことから、今、ケーブルワンが映っていない山内だけは、山内支所のホールのテレビに市役所の好意で、市の好意で、またケーブルワンさんも当然許可をいただいておりますが、1週間分を録画して、それを支所のテレビで流しておられます。それで資料等をとりに来られたとか、そういうときに見ていただいておりますが、そういうふうなことで、ぜひとも放送を同じものを、1週間ずれてもいいですし、ビデオでもいいと思います。今言う録画でもいいと思いますので、そういうふうに流していただければというような希望を非常に聞きます。民間企業であられますので、独自の放送をするというようなことでいろいろ問題もあるかもわかりません。いろんな施設の問題もあると思います。しかし、これを行政の方で音頭をとっていただいて、一つのテーブルに着いて3社のお話をさせていただけないかなというふうに思うわけでございますが、その辺の取り組みについて御答弁をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も山内の方から、これは杉原議長にも話は入っていると思いますけれども、全く同じことを結構聞きます。そういう意味で、やっぱりせっかく合併して1年にもなりますので、同じ情報を共有してほしいというのは市長としても同じことを思っております。

ただ、先ほどおっしゃられたように、強制力はなかわけですね。ですが、既に3社の社長に私の呼びかけで集まってもらっています。そこで、先ほど話が出た話をさせていただいております。その一方で、これは視聴者の方が、やっぱりそういうふうにしてほしいという声を各ケーブル局の皆さんたちへ、やっぱり入れてほしかわけですね。必ず、放送局の場合は視聴者の意向というのが、社長の意向もありますけど、視聴者の意向というのが大事だというふうに言われておりますので、ぜひそういうお声がけをですね、また私自身も呼びかけたいと思っておりますし、できればやっぱり3社あるかどうかは別にして、武雄の皆さんは全く同じものを見ていただきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

12番末藤議員

12番（末藤正幸君）〔登壇〕

どうもありがとうございます。非常に喜ばしい答弁をいただきました。

合併をした武雄市全体が、やはり一体感醸成のためにも本当に必要なことと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

「佐賀のがばいばあちゃん」の口ケ誘致、本当に大成功したと思っております。武雄の知名度アップにも本当に貢献したのではないかなと思っておりますが、この武雄市の一体感醸成にも十分効果的になったと思ひます。ありがとうございました。今後とも、武雄市がいち早く一体感を醸成し、均衡ある発展を目指しますよう、市長の持ち前の行動力を発揮していただきまして、かじ取りに頑張ってくださいことをお願いいたしまして、私の一般質問を終わりたいと思ひます。ありがとうございました。